

【展覧会】2020年新春より「華めく洋食器 大倉陶園 100年の歴史と文化」展を開催

「良きが上にも良きものを」—今も息づく、創業者の熱き想い。

「陶磁器に出会うシリーズ」の第8弾は、大正8（1919）年に大倉孫兵衛、和親父子によって創設された日本を代表する洋食器メーカー、大倉陶園の登場です。

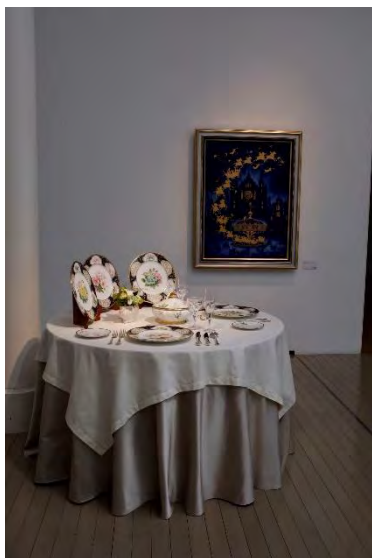
大正8（1919）年に大倉孫兵衛、和親父子によって創設された大倉陶園は、日本を代表する洋食器メーカーとして世界に誇る作品を生み出してきました。「良きが上にも良きものを」の理念のもと生産される磁器は、フランスのセーヴルやドイツのマイセンなどの名窯にも比肩すると高く評価されています。品格を備えた洋食器は、皇室をはじめ、数多くの文化人や財界人に愛されたほか、老舗ホテルやレストランでも供され、日本の洋風文化の一翼を担ってきました。

本展では、草創期から現在までの作品を通じ、その優れたデザインや品質を紹介するとともに、日本の洋食器文化における同園の役割を探ります。また、最新の調査結果を反映し、これまで知られることのなかった創業当時など戦前の様子を伝える資料も併せてご覧いただきます

さらに、茶室での特別展示をはじめ、大倉陶園の魅力をさまざまな角度からおたのしみ頂ける関連企画をご用意しております。

本展は巡回展です。

- ・渋谷区立松濤美術館（2019年6月8日～7月28日）終了
- ・岐阜県現代陶芸美術館（2019年8月10日～10月14日）終了
- ・細見美術館（2020年1月7日～3月29日）最終会場



展示風景=岐阜県現代陶芸美術館内覧会

■主な出品作品



色蒔デミタス碗皿

1935 - 45年 東京村田コレクション



岡染付薔薇花瓶

1935 - 45年 個人蔵



瑠璃透彫サービス皿

1940 - 45年 個人蔵



貴賓用特別食器揃（満州国皇帝溥儀を迎えるに際し製作）

1935年 奈良ホテル蔵



鸚鵡

1928年 東京村田コレクション

■開催概要

展覧会名：華めく洋食器 大倉陶園 100年の歴史と文化
100 years of Japanese Tableware - Okuratouen
会期：2020年1月7日(火)～3月29日(日) 展示替え有り
前期：1月7日(火)～2月16日(日)
後期：2月18日(火)～3月29日(日)

開館時間：午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
入館料：一般1,400円(1,300円) 学生1,100円(1,000円)
※()内は20名以上の団体

休館日：月曜日(祝日の場合、翌火曜日)

主催：細見美術館 京都新聞

特別協力：株式会社大倉陶園

助成：公益財団法人 花王 芸術・科学財団

会場・お問合せ：細見美術館

〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3
TEL075-752-5555 FAX075-752-5955
ホームページ <http://www.emuseum.or.jp>



「一本のバラ」プレート(部分)
1990年 大倉陶園蔵
撮影：鈴木 心

資料(画像)・取材をご希望の方は、
ホームページリリースページ「資料(画像)申込フォーム」もしくは「QRコード」より
お申込みください。



【担当・お問合せ】

学芸：伊藤京子 gakugei@emuseum.or.jp TEL075-752-5555 FAX075-752-5955
広報：三宅由紀 kouhou@emuseum.or.jp TEL075-752-5555 FAX075-752-5955